



有明高専だより

第147号

2015.11



特集	2・3
シリーズ研究室訪問	4
シリーズ企業訪問	5
オープンカレッジ2015	6
ロボットJr.リーグ/地域教育支援事業	7
第29回 体育祭	8・9
第52回 九州沖縄地区高専体育大会成績	10

目次

第50回 全国高専体育大会成績／	
第2回 九州沖縄地区・全国高専弓道大会成績	11
Hondaエコマイレージチャレンジ九州大会／	
第20回 柳川ソーラーボート大会／英語弁論大会	12
夏季休業中の海外研修	13
インターンシップ報告	14・15
トピックス／編集後記	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年・組)

有明次世代科学クラブ3年間の取り組み



司会：I科 森 紳太郎
 出席者：M科 坪根 弘明先生(主担当・講師)
 E科 石丸 智士先生(講師・支援教員)
 G科 竹内 伯夫先生(支援教員)
 1M 田中 翔平さん(第1期卒業生)
 1E 西村 勇輝さん(第1期卒業生)
 【座談会には欠席でしたが、上記教員以外にC科 藤本 大輔先生(講師・支援教員)とG科 田中 彰則先生(支援教員)も担当されました。】

森 有明次世代科学クラブ(Ariake Next Generation Science Club)は、日本の将来を担う科学者を目指して理数分野に興味をもつ中学生に科学者としての教育を行うキャリア教育クラブで、中学1年～3年生を対象として有明地区の環境問題に取り組んでいます。クラブは平成27年度も継続して開催されていますが、平成24～26年度は独立行政法人科学技術振興機構(JST)による事業「次世代科学者育成プログラム」として実施されて、クラブの第1期生が卒業した3年で一区切りとなりました。

そこで今回、立ち上げからの3年間に講師として活動された先生方と、有明次世代科学クラブ第1期卒業生で、今年度本校に入学したクラブOBの学生二人にお話をうかがいたいと思い、お集まりいただきました。まずは、主担当の坪根先生から有明次世代科学クラブを立ち上げた動機や背景をおうかがいしたいと思います。

坪根 有明高専では、これまで地域貢献として出前授業などをやってきましたが、単発的なイベントであり、継続性という意味では物足りなさを感じていました。一方で、10年以上前から中学生の理科離れ、理科への興味が薄れている傾向が気になっていました。そこで、何かもつとできないかと考えていたところでJSTのプログラム募集があり、応募しました。有明次世代科学クラブのテーマに関しては、「環境問題」と「地域性」の二つをキーワードとして選定しました。なお、3年間の活動テーマは、平成24年度が太陽光発電、平成25年度が海苔の排水改善、平成26年度がクリークの水質改善でした。

森 ありがとうございます。では、次に今回お集まりいただいた先生方が担当された内容について教えてください。

石丸 クラブ1年目の講師として、太陽光発電に関する講義や実験、解説を担当しました。

竹内 同じくクラブの初年度から関わっています。クラブではA、B…という班を編成していたのですが、そのとりまとめや進行役をやっていました。

坪根 もともと、このプログラム自体が年度ごとに審査があるので有明次世代科学クラブが3年続くかどうか分からない状態で3年分のテーマを考えてM・E・C科の先生にご協力いただいたのですが、専門学科の教員だけで中学生に対応するのは少し不安だったので、数学や理科のアドバイスをいただくために一般科の竹内先生にお願いしました。私自身は対外的なことはほとんど対応していました。

森 立ち上げのご苦労があったんですね。ここで、クラブ第1期

生の二人におうかがいします。まず、この有明次世代科学クラブに応募したきっかけを教えてください。

田中 もともと有明高専に兄がいて楽しそうだったので高専自体に興味があり、理科が好きだったので、荒尾市の広報で募集を見て応募しました。

西村 母が有明高専の卒業生で高専についていろいろな話を聞いていたし、理科にも興味がありました。そして中学校で配付された資料を見て面白そうだったので応募しました。

森 なるほど、二人とも有明高専には縁があったんですね。それでは、先生方はこの活動を続ける中でご苦労されたことや戸惑われたことはありますか。

石丸 第1期は全員中学1年生だったので、どの程度まで教えるのか、どのあたりまでやってもらうのか全て手さぐりでの状態で進めていたことです。講義テキストの準備も当日の朝にやっとできたりしていました。

竹内 初年度は応募の倍率が3倍と高く、選ばれた子供たちに対してきっちりやらないといけないと思って、講義中心になってしまいました。中学1年生には内容が難しかったようです。

森 実際、学生さんはどうでしたか？

学生 難しかったです(笑)。

森 では坪根先生、主担当という立場で運営をされていて、ご苦労も多かったのではないですか？

坪根 頭の中に大まかなイメージのみがある状態で走りながら考えるタイプで、有明次世代科学クラブも完全な設計図が無い状態で関係者に説明したりして、プログラムを走らせながら考えていました。なんとかなるかな、という思いもありながら、そういう不安を表に出せないのがちょっと大変でした。

森 やはりいろいろとご苦労があったんですね。それでは、逆に手ごたえを感じたことはありますか。

竹内 科学研究をやる上でのいろいろな発想や手法など、固定観念の無い中学生ならではのアイデア、私自身では浮かばないアイデアが出てくるところが面白かったですね。

石丸 子供たちが成長していく様子が現れたことです。最後の発表も自分たちで考えて取り組んでくれました。

坪根 プレゼンテーションでは大牟田市エネコススクールで口頭発表をやってもらったのですが、原稿を見ずにしっかり発表をしていたことですね。科学的なことをきちんとまとめて発表するということが、中学校の1年生でもやればできるのだな、と思いました。

見学していた中学校の先生も感心していました。

森 大勢の人たちの前で発表して、緊張しませんでしたか？

田中 最初はとても緊張して、内容が思い出せないくらいでしたが、最後の方では自分自身でちゃんとできたと思えるようになりました。

西村 3年間、ずっと緊張しましたが、最後の発表では練習通りできた、という手ごたえがありました。

森 中学生が大勢の前で発表する機会はめったにないでしょうから、良い経験になりましたね。では次に、クラブ活動の一環でいろいろな施設を見学したようですが、見学での子供たちの様子はどうでしたか？

坪根 見学はちょっとした旅行みたいな感じで、座って勉強しているより楽しかったようです(笑)。

竹内 施設見学は家族の方と一緒になので、いつもの活動とは雰囲気違いますね。

森 やはりそうですね。それでは、3年間で見学に行った施設のなかで印象に残っているのはどこですか。

田中 海苔の養殖場です。有明海は身近な場所ですが、船に乗って沖合まで出て、初めて海苔網を見学しました。

西村 長洲町にあるメガソーラー発電所です。巨大なソーラーパネルが一面に並んでいる光景に圧倒されました。

森 これもなかなか経験できることではないと思います。それでは、3年間の活動の中で、興味を持ったことや面白いと思った実験テーマについて教えてください。

西村 3年目に取り組んだ海苔排水の透明化に関することです。海苔排水はそのままではピンク色をしているので、化学薬品を使って透明にする実験をしました。結果として透明にすることはできましたが、薬品や排水の臭いが取れないという課題が残っています。

田中 2年目に取り組んだ海苔排水の中に含まれる細かい海苔を取り除く装置の仕組みを考えたことです。細かい海苔は層になった濾過膜で除去しますが、実際にホームセンターに出かけて濾過膜に使えそうな材料、スポンジや綿などを探して実験しました。

森 充実した3年間だったようです。ちなみに、有明高専を受験しようと思ったのはいつごろですか？この有明次世代科学クラブに参加したことも影響していますか。

西村 このクラブ活動に参加できたことも理由の一つで、中学1年の後期に決めました。

田中 僕は中学2年の中ほどです。このクラブ活動も志望を決めるきっかけとなりました。

森 中学生のうちに有明高専に来て活動することで、高専の様子をより多く知ることができるのは有明次世代科学クラブに参加したメリットですね。受験してくれてこちらも嬉しいです。それでは、先生方におうかがいします。3年間を通じて心に残っていることはありますか。

石丸 見学や研修のほかにも坪根先生が企画を立てて、ドッジボールなどのコミュニケーションを深める行事も取り混ぜながら、自分も3年間楽しむことができました。1年目は講義中心でしたが、2年目、3年目は自分たちで話し合い、協力して課題にチャレンジしたことは受講生にとっても良い経験になったと思います。

竹内 子供たちがどんどん成長していくのが面白かったし、坪根先生がすごいなと思いました(笑)。そして、対外的な行事で学外の中学生や地域の子供を育てる取り組みの一方で、有明高専の学

生も伸ばしたいという思いのバランスが難しかったのですが、同時期に始めた課題研究で学内ヘフィードバックすることができて、自分自身にとって刺激になったことです。

坪根 今年は4年目になったのでクラブのOBが遊びに来て、近況報告をしてくれました。3年の間に泊りがけの研修などで仲の良い友達ができ連絡を取り合っているそうです。それから、保護者があんなに盛り上がりしてくれるとは思わなかったです。宿泊研修では保護者の方に食事の準備をバックアップしていただきました。今でも講義中は教室の後ろに保護者席ができてたくさんいらっやっして、熱心な方が多いですね。

森 有明次世代科学クラブを担当する教員にとっても貴重な経験だったようです。学生さんは中学校からそれぞれ一人ずつで最初は寂しかったと思いますが、他の人たちとの交流も含めての感想をお願いします。

西村 興味があることができたので楽しかったし、それまで知らなかった人とのコミュニケーションがとれたので良かったです。

田中 自分が好きなことができたし、地域はバラバラだったけれど他の学校のことが分かって楽しかったです。

森 有明次世代科学クラブには本校専攻科の学生がTA(Teaching Assistant)として入っていましたが、その人たちの印象はどうでしたか？

田中 TAの人たちは一所懸命教えてくれて、若い先生と言うイメージでした。

西村 やさしくて、とても親切でした。

森 この有明次世代科学クラブがずっと続いていたら、今度はぜひTAとしてサポートしてください。ところで田中君は東京での全国受講生研究発表会にも参加して優秀賞をもらっていますね。

坪根 2年目の成果発表の評価が優秀だったので、そのご褒美と言うか新たな試練と言うか(笑)、2014年11月に開催された発表会に参加してもらいました。

田中 自分が参加すると聞いた時にはびっくりしてちょっと不安でした。1日目は昼に講演会とディスカッションを聴いて、夜には学習会や交流会がありました。2日目にはポスター発表会があり、ポスターの前で聴講している人たちに向けて発表をしました。発表は学生向け、一般の人たち向け、審査員向けと分かれていて、最初は緊張しましたが、質問には全部答えることができました。結果として優秀賞をいただきました。

森 なかなか普通の中学生では味わえない貴重な経験でしたね。それでは坪根先生、最後に、これからこの有明次世代科学クラブをどのように発展させていくかという展望や今後の見通しについてお願いいたします。

坪根 2年目の2014年から、本校の主催で「子ども環境会議」を立ち上げました。大牟田地区、荒尾地区そして柳川地区という地域の中学生同士の研究発表の場として考えています。そして中学生だけでなく、小学生や保護者も含めて、県境を越えた地域社会に向けて年間を通じた活動の発表の場として実現することができればと思っています。

森 有明次世代科学クラブがきっかけとなって、新たな活動への展開が充実していくと良いですね。本日はいろいろなお話を聞くことができました。特にクラブOBの学生さんにお話を聞くことができ良かったです。どうもありがとうございました。

シリーズ 研究室訪問

聞き手: A科 松岡 高弘

今回は、一般教育科の鮫島朋子先生と電子情報工学科の松野哲也先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

松野 哲也 研究室(電子情報工学科)

・現在の研究テーマをお聞かせください。

物理系の数値シミュレーション、および多関節ロボットの行動制御です。

前者は超伝導体における巨視的量子効果と電磁現象をコンピュータ上で効率的に再現して工学的応用、例えば超伝導線材の臨界電流密度の向上を目指すものです。あるいは超伝導という物理現象のより良い理解を目指します。

後者はロボット用スマートサーボモータをマイコンボードで外部環境に応じて適切に制御する試みです。

・この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

私はかつて大学院時代に超伝導に関する実験を行っていましたし、プログラミングは好きでした。

最近ではコンピュータの性能がずいぶん向上したので超伝導シミュレーションも面白いと考えたことがきっかけです。

ロボットに関するテーマについては、高専らしい、ものづくりのテーマを模索した結果です。

・研究で苦労されたこと、心がけていることなどをお聞かせください。

数値計算アルゴリズムの実装にいつも神経を使い苦労しています。より美しいコードを書けるよう技を磨き続けること、なるべく大きなアンテナを張って新しい学術的課題をいち早くキャッチすることを心掛けています。

・今後の研究の方向をお聞かせください。

物理シミュレーションのための数値計算の世界は奥が深く、まだまだ新しい数値積分アルゴリズムの提案がされ続けています。また、超伝導体における電磁現象の原理の解明は十分とはいえません。これらについて理解を深めていきたいです。

ロボットについては模索中です。

・学生へのアドバイスをお願いします。

研究の途中で行き詰ったら何をすべきか。やみくもにでもいいのか、とにかく休まずに動き続け試行錯誤することです。



鮫島 朋子 研究室(一般教育科)

・現在の研究テーマをお聞かせください。

大学の頃から、複雑な振る舞いをする現象について研究しています。簡単に言うと、「ただランダムで、適当でメチャクチャなものだ」と思っていた複雑な現象について、「そうではなさそうだ。何か決まりがありそうだ。」ということを見つける研究です。

私たちの周りは複雑な現象であふれており、私の研究は、対象の中からモデルを組み立てて数値シミュレーションを行うことです。最近では、複雑な振る舞いをするものを制御するというテーマの研究をしています。

・この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

私はもともと小学校や中学校の先生になろうと思っていました。中学校なら理科の先生かなと。そして、理科を選択すると、物理・化学・生物・地学とさらに科目を選ばなければなりません。大学2年の半ば頃に、物理を選択することを決めました。理由は、当時大学で学んでいた数学の授業が楽しくて、そのとき担当だった先生が物理の先生だったから。

研究は、数値シミュレーションが主なのにプログラミングは初めてで、最初の頃は全く理解できませんでした。ただ、わからないなりにとらずに手を動かしていたので、少しずつ理解が進み、少しずつ研究が進むようになりました。その過程が楽しくて、もともとと思うようになり、そうして今の自分があります。このように、当時の私は目標が明確に定まっていたわけではありません。その時その時、自分が楽しいと思うことを選んでいった結果が今の自分です。ただ、私なりに目の前のことには真面目に取り組んできたつもりです。もちろん、将来の目標は明確である方がいいとは思っています。その方が、自分のやるべきことがはっきりして動きやすいですからね。だからと言って、目標はまだ見つからないと焦る必要はないかと思います。まずは、目の前のことに一所懸命取り組んでみてください。そのうち、好きなこと、やりたいことが見つかるかもしれません。何がきっかけになるかなんて誰にもわかりませんが、自分のペースでいいと思いますよ。

・学生へのアドバイスをお願いします。

「こんなこと勉強して何の役に立つの？ 将来、絶対使わない。この勉強は無駄だ。」って言われるたびに私は悲しい気持ちになります。まあ、運動方程式を知らなくても生きてはいけますから。でも、この先どういう場面で何が役に立つのかなんて絶対にわからないですよね。今の自分が「これは役に立たない」、「これは無駄」と判断して切り捨てるのではなく、とりあえず、目の前にあることに一所懸命取り組んでみてはどうでしょうか。自分の頭で考え一所懸命取り組んだ過程の中に、生きていくための様々なアイテムが転がっていると思います。今は、多種多様なアイテムを集めるときだと思います。将来、いざ何かをやりようと思ったときに、アイテムが多いに越したことはないですよね？ 役立つか、役立たないかを決めるのは未来の自分ではないと思いませんか？ 「今の自分」が「未来の自分」につながっています。未来の自分のために、今やるべきことを考えられたらいいですね。



シリーズ 企業訪問

-卒業生を訪ねて-

日本電子株式会社(本社昭島製作所)
東京都昭島市武蔵野3丁目1番2号

聞き手: E科 森山 賀文

日本電子株式会社、本社昭島製作所にお勤めの本校卒業生にお話をうかがいました。お話しくださったのは、上田将弘さん(E科47期)、伊木田公貴さん(E科48期)です。

森山: まずは仕事のことについて教えてください。こちらの製作所ではどのようなものを作っているのですか?

上田: 電子光学機器・分析機器などの理科学計測機器や医療機器、半導体関連装置の製作をしています。

伊木田: 分析機器の電子顕微鏡は、電子を使用して小さなモノを観察・分析するために使用されます。電子の波長は光の波長より短いため、光学顕微鏡より小さなものを観察することが可能です。

森山: これまでに携わってこられた仕事の内容を教えてください。

上田: 分析装置の一つである透過型電子顕微鏡の最終調整を行っています。具体的には、装置の配線・組立や電気的動作の確認の後、装置が仕様通りの性能が出るように調整し、調整後には出荷のための解体を行っています。配線から出荷までの期間は約4ヶ月です。

伊木田: 私は製造研修の後、走査顕微鏡の電気設計部へ配属となり、まずはアナログ回路を勉強しつつケーブル作製などを行っています。また、JASIS 2015科学分析機器展へ赴き、市場の調査や他社製品の見学などを行いました。

森山: お仕事をされるときに、いつも心がけていることがあれば教えてください。

上田: 装置の動作原理を勉強しながら、「なぜ、この調整をしなければならないか」、「この調整を行うことで、装置の内部では何が起きているか」など作業一つひとつの意味を常に考えるようにしています。そうすれば無駄な作業が減って作業の効率が上がったり、突然のトラブルにも対処できたりするようになると考えています。

伊木田: 何事も経験だと思って、失敗を恐れずにどんどん挑戦するように心掛けています。また、分からないことはまずは自分で調べ、使ってみて経験を積むことを大切にしています。

森山: 次に学生時代のことについて教えてください。高専で得た一番のものは何ですか?

上田: 考える力です。私は高専でロボコンに5年間携わりました。ロボコンでは、大会のルールに合わせてロボットの動きを考えたり、考えた通りに動かすための電気回路の作成を行ったりする必要がありました。それらの実現のために、自分の知っている知識を組み合わせて考える力が役に立っています。

伊木田: 学生時代は昼休みにサッカーばかりしていました。会社でもサッカーを通して仲良くなった方も多く、仕事以外での人との繋がりもとても重要だと改めて感じました。学生時代の仲間に感謝しています。

森山: 習った科目の中で役に立っているものはありますか?

上田: 電子顕微鏡には電磁レンズが使われているので、レンズに関する光学的な知識や、磁界と電子の関係についての知識が必要になります。電気工学科の高学年で習った磁気・電子系の科目の内容が役に立っています。



上田さん(左)と伊木田さん

森山: 高専出身でよかったなと思うことはありますか?

伊木田: 周りに修士、博士卒の同期が多く、彼らの専門分野はさっぱりですが、電気に関しては2~7歳上の同期と同じレベルで話すことが可能なことです。また高度な電機分野を教わる際に、基礎を一度勉強したことがあるだけでも随分理解し易かったです。

森山: 今後の目標あるいは現在挑戦していることを教えてください。

上田: 英語の習得です。私の会社の製品は海外との取引も多く、将来的には海外のお客様と関わる仕事をする可能性もあるので、今のうちから英語の勉強をしています。

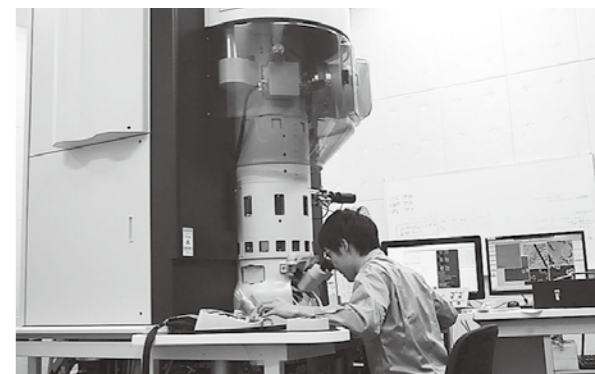
伊木田: 仕事の目標としてはどんどん実力をつけて、原子を観察できる透過電子顕微鏡の分解能を走査電子顕微鏡で実現したいです。そのために今はひたむきに勉強を頑張ろうと思います。

森山: 最後に、学生へのメッセージをお願いします。

上田: 部活やそれ以外でも良いので、いろいろなことに挑戦し、自分の好きなことをたくさん見つけてください。好きなことを見つける過程でいろいろな発見があると思います。また、何かに熱中して続けることができれば、よりいっそう自分の力になることがあると思います。

伊木田: 勉強は確かに大切ですのでしっかりと勉強して欲しいのですが、今しかできないことも沢山あると思います。旅や留学といった長期休暇のある学生時代にしかできないことや、価値観を変えるような経験を、多少の無茶でも是非挑戦してみてください。

森山: 本日は、お忙しいところお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



透過型電子顕微鏡の調整の様子

オープンカレッジ2015

地域共同テクノセンター

「オープンカレッジ2015-みて・ふれてワクワク体験!!」が8月22日(土)、23日(日)の2日間にわたり開催されました。両日ともに好天に恵まれ、公式には初日587名、2日目596名(計1,183名)の方々にご来場いただきました。自家用車で来校が多く、駐車スペースの関係で受付を通られなかった方が多数おられたことから、もっと多い来校者があったと思われます。

オープンカレッジは、地域の方々に本校を開放して、地域との交流を深めること、小中学生に「ものづくり」に触れて、理科への興味を持ってもらうこと、そして本校の魅力を知っていただくことを目的としています。本年度は、各学科の特徴を活かした「ものづくり体験教室」に新しい展示や工作が加わったり、「体験授業・講座」も充実していました。また、教育研究技術支援センターによる顕微鏡工作も開催されました。従来からの「学校紹介」、学生の活動を紹介した「部活動紹介」、リケジョ学生による「高専女子イベント」、有明広域産業技術振興会会員企業紹介コーナーも好評でした。

今年の特長としては、次年度からの本校の改組を確認するためか制服を着た中学生の来校が例年に比べ多いようでした。それに伴い中学3年生とその保護者向けの「個別進路相談」は大盛況の様子でした。次年度の入試方式変更に伴ったマークシート体験も多くの中学3年生が挑戦してくれていたようです。

最後になりますが、本校主催の全国高専大会の日程が重なり、教職員の力が十分でない状況でしたので、運営について少し心配していましたが、無事に開催することができました。暑い中、ご協力をいただいた教職員・学生各位に深く感謝いたします。



2015年8月22日(土)~23日(日) 午前9時~午後4時 (23日午前9時30分よりロボットリーグ特別観覧)

お問い合わせ: 有明工業高等専門学校 地域共同テクノセンター TEL: 0954-53-0627 FAX: 0954-53-0625 福岡県大牟田市東原町1-1-50 URL: http://www.mitsubishi.ac.jp/oc/

機械工学科

- ・機械は奇怪、なんだこりゃ!
- ・作って 飛ばそう! 傘袋ロケット



物質工学科

- ・楽しい化学・生物実験を体験!
- ・高専生を体験してみよう!



学校・学生活動紹介

- ・「高専ってどんな学校?」
- ・入学試験を体験しよう!
- ・学生活動紹介



電気工学科

- ・はじめての電子回路講座
- ・クリップモーターで回転競争だ!



建築学科

- ・模型でつくる“憧れのマイハウス”
- ・楽しいおりがみ建築



高専女子イベント

- ・カルメ焼きを作って食べよう!



電子情報工学科

- ・楽しい電子情報技術!
- ・プログラミングを体験しよう!



一般教育科

- ・やってみよう!
- 不思議で楽しい理科実験



教育研究技術支援センター

- ・顕微鏡工作



ロボット Jr. リーグ

ロボット Jr. 実行委員長 堀田 源治

オープンカレッジと同時開催の「ロボコン Jr. リーグ有明ステージ2015」は、今年で21回目を数え、今回は「黒ダイヤを積み上げろ!」のテーマを掲げ、大牟田市・荒尾市教育委員会の後援、荒尾・大牟田南・大牟田北・大牟田ロータリークラブの共催のもと、盛大に開催されました。

今回は、大牟田・荒尾地区のみならず、みやま・柳川・久留米・玉名地区からの参加もあり、全22チーム74名の小中学生が、真夏の暑さをもとめず、汗を流して、熱心にロボット製作に取り組みました。

その甲斐あって、8月23日(日)開催のコンテストでは、創意工夫されたユニークなロボットによる白熱した競技が繰り広げられました。

- なお、今回の競技結果は次のとおりです。
- 優勝 ロボット好き(荒尾少年少女発明クラブ)
 - 準優勝 ドラゴンファイヤーズ(大牟田市羽山台小)
 - 優秀賞 ハラダズ(大牟田市天の原小) 理系くん(柳川市柳城中)
 - 大牟田市教育委員会賞 暁(大牟田市田隈中)
 - 荒尾市教育委員会賞 ギャラクシー(荒尾市荒尾海陽中・玉名高校附属中)
 - ロータリークラブ賞 がんばろう!(荒尾少年少女発明クラブ)

結果発表前に本校ロボット工学研究部による今年度の高専ロボコン大会出場マシンによるデモンストレーションが行われました。コンテストに参加した子供たちが目を輝かせて見学していたのが印象的でした。



地域教育支援事業 教育講座(理科)

地域教育支援委員長 原模 真也

平成27年7月と8月に大牟田市、荒尾市、玉名市の小学校・中学校・特別支援学校の先生を対象に理科の教育講座を開催しました。参加していただきました先生方、ご協力いただきました先生方、ありがとうございました。

大牟田市小学校・特別支援学校教育講座(理科) 日時:7月27日(月) 13:30~15:30

- 1.「熱ケツを身に付けて、熱を探索しよう」(機械工学科)



講義風景

- 2.「身近な電気製品の仕組みの解説と分解」(電子情報工学科)



パソコンの分解・解説風景

荒尾玉名地区理科教員教育講座 日時:8月20日(木) 9:30~11:30

- 1.「クリップモーター製作のポイント」(電気工学科)



クリップモーター講義風景



クリップモーター製作説明風景

- 2.「水質調査」(物質工学科)



水質調査講義風景

第29回体育祭 10月25日(日)

第29回 有明工業高等専門学校
体育祭
結 ~記録より
記憶に残せ~
日時：平成27年10月25日(日)
場所：有明高専グラウンド



総合優勝A科・敢闘賞M科・応援賞A科・バックボード賞M科・マスコット賞C科

体育祭実行委員長 5M 中村 匠吾

今年の体育祭は「結~記録より記憶に残せ~」というテーマのもと、一致団結して一生懸命頑張りました。今回の体育祭から、学生主体で行うことになり、学生主事室には実行委員のフォローをしていただくことになりました。学生主体になったからこそ出てきた無理難題もたくさんありました。その都度、周囲に相談して、臨機応変に対応できました。全体練習では、例年よりも早く、スムーズに動けたので、学生の皆さんには本当に感謝しています。

次回の体育祭のことは未定ですが、各学科5学年そろった最後の体育祭として競技も応援団の演舞もマスコットも、切磋琢磨して盛り上がりました。



第52回 (平成27年度) 九州沖縄地区高専体育大会成績

◎陸上 7/18・19 御大典記念グラウンド (大牟田市)
学校対抗 優勝 (総合得点109点)

[男子]

100m	梅崎 龍之介	準優勝	10.72
400m	平川 朔弥	優勝	49.08
	溝口 起司	5位	52.18
800m	平川 朔弥	優勝	1:57.04
110mH	前田 龍生	3位	16.37
400mH	前田 龍生	優勝	1:00.67
3000mSC	大城 匠己	準優勝	11:01.10
200m	梅崎 龍之介	準優勝	21.65
4×100mR		優勝	42.24 (九州高専記録)
	(井上 傑士・平川 朔弥・塚本 達也・梅崎 龍之介)		
4×400mR		準優勝	3:22.25
	(溝口 起司・平川 朔弥・井上 傑士・梅崎 龍之介)		
走高跳	龍野 義己	準優勝	1m80
	坂田 和人	3位	1m75
走幅跳	井上 傑士	準優勝	6m22+0.7
砲丸投	板橋 晴希	3位	11m28
円盤投	板橋 晴希	3位	28m14
やり投げ	本田 時法	4位	47m74

[女子]

3000m	内尾 瑠里	3位	12:24.40
4×100mR		3位	56.48
	(吉川 みくる・田島 やよい・古山 紗妃・青山 メイ)		
砲丸投	吉川 みくる	優勝	9m33
	古山 紗妃	準優勝	7m57
円盤投	吉川 みくる	優勝	28m48

◎ソフトテニス 7/18・19 大牟田港緑地運動公園テニスコート

団体戦男子 予選敗退
女子シングルス 井手口 由佳 優勝
女子ダブルス 井手口 由佳・大塚 友稀 優勝
山口 杏珠・酒井 麻衣 準優勝

◎バドミントン 7/17~19 玉名市総合体育館

団体戦男子 2回戦敗退
女子 初戦敗退

◎水泳 7/18 福岡県立総合プール

学校対抗 8位 (合計得点 42点)
自由形50m 金子 航大 準優勝 26.67

◎ハンドボール 7/18・19 大牟田市市民体育館

準優勝

◎硬式野球 7/17~19 山鹿市民球場・合志市総合運動公園野球場

初戦 (二回戦) 敗退

◎バスケットボール 7/18・19 合志市総合センターヴィーブル総合体育館・大津町運動公園総合体育館

男子 予選敗退
女子 優勝

◎卓球 7/18・19 熊本市総合体育館大体育室

団体戦男子 優勝
団体戦女子 2回戦敗退 (オープン競技)
男子ダブルス 宮尾 優一・水落 滉太 優勝
男子シングルス 水落 滉太 準優勝
女子シングルス 和田 夢翔 優勝

◎剣道 7/19 熊本高専熊本キャンパス第1体育館

男子団体戦の部 予選敗退
女子団体戦の部 3位

◎サッカー 7/17~19 大分スポーツ公園サッカー・ラグビー場

3位

◎柔道 7/18・19 日田市総合体育館柔道場

団体戦の部 優勝
個人男子 90kg以下級 石貫 大地 優勝
個人男子 90kg以下級 上田 龍二 準優勝
個人男子 90kg超級 江良 英和 優勝
個人女子 52kg以下級 松田 寧々 優勝

◎バレーボール 7/11・12 ダイハツ九州アリーナ

男子 準々決勝敗退
女子 準決勝敗退

◎テニス 7/16・17 熊本県民総合運動公園パークドーム

団体戦男子 2回戦敗退
団体戦女子 準決勝敗退
女子ダブルス 笠井 真穂・沖 あいみ 優勝
女子シングルス 笠井 真穂 優勝



第50回 (平成27年度) 全国高専体育大会成績

◎陸上競技 8/29・30 東平尾公園博多の森陸上競技場

学校対抗 11位 (総合得点17点)

[男子]

100m	梅崎 龍之介	4位	11.06
200m	梅崎 龍之介	優勝	21.43
400m	平川 朔弥	欠場	
	溝口 起司	予選敗退	
800m	平川 朔弥	欠場	
110mH	前田 龍生	予選敗退	
4×100mR		5位	
	(井上 傑士・塚本 達也・梅崎 浩太郎・梅崎 龍之介)		
4×400mR		予選敗退	
	(溝口 起司・梅崎 龍之介・塚本 達也・井上 傑士)		
走幅跳	井上 傑士	16位	
走高跳	龍野 義己	記録なし	
	坂田 和人	記録なし	
砲丸投げ	板橋 晴希	24位	
円盤投げ	板橋 晴希	18位	
やり投げ	本田 時法	21位	
	田中 健太	26位	

[女子]

200m	田島 やよい	17位	
3000m	内尾 瑠里	18位	
4×100mR		13位	
	(吉川 みくる・田島 やよい・古山 紗妃・青山 メイ)		
円盤投げ	吉川 みくる	2位	
砲丸投げ	吉川 みくる	2位	
	古山 紗妃	19位	

◎バスケットボール 8/14~16 鹿児島アリーナ

女子 初戦 (二回戦) 敗退

◎バレーボール 8/22・23 カルチャースポーツセンター 山鹿市総合体育館 (開催校枠出場)

男子 予選敗退
女子 予選敗退

◎ソフトテニス 8/26・27 都城運動公園庭球場・綾てるはドーム

女子シングルス 井手口 由佳 ベスト8
女子ダブルス 井手口 由佳・大塚 友稀 ベスト8
山口 杏珠・酒井 麻衣 ベスト8

◎卓球 8/22・23 那覇市体育館

団体戦男子 3位決定トーナメント進出
男子ダブルス 宮尾 優一・水落 滉太 予選敗退
男子シングルス 水落 滉太 予選敗退
女子シングルス 和田 夢翔 3位決定トーナメント進出

◎柔道 8/22・23 宮崎県総合運動公園武道館 (KIRISHIMA ツワブキ武道館)

団体戦の部 初戦敗退
個人男子 90kg級 石貫 大地 ベスト8
個人男子 90kg級 上田 龍二 初戦敗退
個人男子 90kg超級 江良 英和 初戦敗退
個人女子 52kg級 松田 寧々 優勝

◎剣道 8/22・23 合志市総合センター ヴィーブル総合体育館

女子団体戦の部 ベスト8

◎ハンドボール 8/20・21 八代市総合体育館・宇城市松橋総合体育館文化センター

初戦敗退
◎テニス 8/19~21 熊本県民総合運動公園パークドーム熊本

女子ダブルス 笠井 真穂・沖 あいみ 初戦敗退
女子シングルス 笠井 真穂 準優勝

◎水泳 8/30 鹿児島市鴨池公園水泳プール

自由形50m 金子 航大 21位 27.53



弓道大会

第2回 九州沖縄地区高等専門学校弓道大会
7/11・12 八代市弓道場

男子団体戦	4位	
女子団体戦	予選敗退	
男子個人戦	石橋 英久	優勝
	江崎 航大	3位
	菅原 遼	4位

第2回 全国高等専門学校弓道大会
8/25・26 奈良県立橿原公園弓道場

男子個人戦	菅原 遼	7位
	石橋 英久	16位
	江崎 航大	17位

地区弓道大会



全国弓道大会



Honda エコマイレージチャレンジ九州大会

5E 前原 拓弥

私たち自動車工学研究部は自作の自動車を使って、1リットルのガソリンで何km走行できるかを競う大会「Honda エコマイレージチャレンジ」に出場しています。目標は全国の学生チームのトップに立つことです。その目標に近づくために、日々燃費向上のために車輻の軽量化・エンジン内部の改良を行っています。

8月1日(土)、2日(日)に行われた九州大会では今年度新開発したマイコン制御エンジンの車輻を投入し、その新型車輻で811km/lという成績で4連覇を果たすことができました。

大会直前にはドライバー交代やエンジン廻りの故障で出走ができなくなるという困難がいくつもありましたが、部員の頑張りのおかげで学生部門1、3位、二輪車部門完走という成績を残すことができ、この大会恒例の「勝者の牛乳」

を今年もいただくことができました。

最後に、同窓会のみなさま、ならびにスポンサーの方々、ご支援ありがとうございました。来年は更なる記録向上を目指しますので、ご支援を宜しくお願い致します。



第20回柳川ソーラーボート大会

5M 師岡 昂平

ソーラーボート愛好会は8月1日(土)、2日(日)に開催された第20回柳川ソーラーボート大会に参加しました。

今年は上級生が少なく、1・2年生が多かったため、ボート製作の流れを覚えてもらうことに力を入れました。去年までのボートをベースに船体の補修、電気系統の作製、組立等の作業を一通り行い、部員全員のソーラーボートに対する理解度を深められたかと思えます。また去年まで私がドライバーをしていましたが、今年で卒業するため、3年生の部員に新しくドライバーとして出場してもらいました。

大会当日は天気にも恵まれ絶好のソーラーボート日和でした。成績は周回予選レースが23艇中17位、スラロームコンテストが15艇中9位でした。成績はまずまずでしたが、周回レース、スラロームコンテスト共に無事完走すること

ができ、来年に向けて改善していくことははっきりしてきました。来年の大会では入賞することを目指して今後活動に励んでいきたいです。



英語弁論大会に出場して

2A 江島早英

私は英語研究部の活動の一環として、昨年はスピーチの部、今年は暗唱の部に出場しました。スピーチは内容が勝負ですが、暗唱は発音表現力、ジェスチャーなどの実力が重視され、周りと比較されるため、入賞するのが難しい部門です。

今回、私は力不足で入賞することができませんでした。しかし、コンテストを通して、九州沖縄9高専からの多くの学生と出会い、英語の大切さ、自分自身の英語力の無さを実感させられました。

このような経験をバネに、更に英語の勉強を頑張って、来年はぜひ入賞したいです。

最後に、来年の主催校はこの有明高専です。英語や異文化に興味がある、もしくは、弁論大会に出場してみたい

学生は、これをきっかけに英語研究部を覗いてみてください。毎週水曜日、図書館ラーニングコモンズにて活動を行っています。



第48回九州沖縄地区国立高等専門学校
英語弁論大会

夏季休業中の海外研修

タイ・バンコクの語学研修について

2I 相川 友季

私はタイの首都バンコクにあるキングモック工科大学北バンコク校(KMUNB)へ2週間の語学研修に行ってきました。私にとって初めてのタイへの語学研修で、行く前はとても楽しみにしていましたがその分不安も大きかったです。現地の英語は思った以上に訛っており耳が慣れるまでは大変苦労しました。

しかし、タイの学生は皆明るく気さくで、私の話す拙い英語でも、私が聞き取れなくても笑顔で何度も耳を傾けやすい英語に直話ししてくれました。平日は講義を受けるか研究室で作業をしていたのですが、休日は自由行動ができ、タイの学生たちとバンコク市内へ出かけるなど、とても有意義な時間が過ごせました。

この研修で日本には体験できない貴重な体験が沢山でき、非常に楽しい時間が過ごせました。そして、自分の英語力の低さを改めて実感する良い機会になったので、今度また行く機会があるのならそのときに向けて英語力を上げて行きたいです。



台北科技大学での研修

2A 栗原 美瑞希

私は8月16日から8月30日まで台北科技大学に行ってきました。平日は中国語で授業を受け、休日は現地の人や他高専の人と出かけたりました。

授業では先生が私たちにもわかるように授業を工夫したゲーム形式で行ったりしてくださいました。他にも中国の文化を学ぶために「紙切り」「中国結び」「書道」「レイチャ」などの体験活動も行いました。さらに、文化や歴史を知るために故宮博物院や国立歴史博物館を訪ねました。

企業訪問ではTOSHIBAとASUSに行きました。TOSHIBAは日本語で説明してくださったので困りませんでしたが、ASUSでは中国語で説明されたので意味を理解するのに苦労しました。

沖縄高専に毎日提出するレポートは全て英語で記入しなければならず大変でしたが、やりがいがありました。大学側からの課題

は授業で習った中国語をムービーやボイスレコーダーで録画・録音して提出しました。一人でする課題もあれば、二人でする課題もあり他高専の人とも触れ合う機会が多かったです。

このプログラムを通して、他高専の学生とのつながりが深まったと思います。最初はうまくやっていたけれど、現地の人も他高専の人もとても優しくしてくださったので、約2週間とても充実した生活を送ることができました。



シンガポールの印象

3A 宮崎 遥

私は9月20日~29日にシンガポール・テマセクポリテクでのグローバルエンジニア育成プログラムに参加しました。このプログラムに参加を希望した理由は、海外と日本の違いをネットや本の世界の中だけでなく、自分の目で見てみたいと思ったのがきっかけです。

実際に行ってみると日本とは違う環境が見えてきました。日本に比べて人口密度高いわりに道路がとても広いことや、都会的な街並みの中にたくさんの緑があるなど、日本とは似ているようで似つかないそんな街並みがとても印象的でした。

シンガポールは交通網も発達しており、地下鉄とバスは1分~

5分の間隔で常にていて、どこへ行くのにも困りませんでした。

高専3年最後の夏の充実した10日間になりました。将来この経験を活かし、魅力的な日本の街並みを作っていけるような技術者になりたいと感じました。



英語キャンプに参加して

5E 寺田 はな

夏休みの2週間、私はシンガポール・ニーアンポリテクでの英語キャンプに参加しました。参加した当初はとても不安で、あまり乗り気ではありませんでしたが、他の高専生との親睦を深めることでとても楽しくなりました。とても過酷な研修でしたが、英語に対し積極的に学ぼうとする自分を得ることができました。また、シンガポールの友達もでき、今もLINEやTwitterで連絡を取り合っています。

私はあまり英語ができず、シンガポールの友達との会話にはとても苦労しました。しかし、辞書一つがあるだけで英語圏の人たちと仲良くなれることにとても感動しました。そのおかげもあってか、リスニングが本当に苦手だった私でも2週間後にはなんとな

く会話が理解できるようになるまで成長することができました。英語キャンプの醍醐味は、英語を学ぶことですが、友達を作ることができたおかげで英語を楽しく学べたと思います。

英語キャンプが終了してからも日本の友達とは一緒に遊んでいます。本当に参加することができて良かったです。



インターンシップ報告

牧野技術サービスのインターンシップに参加して 4M 久保 龍星

私は8月31日から9月12日まで、神奈川県牧野技術サービスという工作機械のサービスエンジニアのインターンシップに参加しました。一週目は工場見学や実習で工作機械の構造について学び、二週目は海外の支社と英語でコミュニケーションを取りながらトラブルシューティングを行い、最終日は報告会を行いました。

牧野の工作機械は精密な動きができることが特徴なのですが、検査をする際JIS規格の半分の値を最低ラインにしている、これが世界に認められている理由だと実感しました。また、トラブルシューティングを行った際も、できるだけ早く顧客を満足させ、期待以上のサービスを提供する、という意識の高さを感じました。

最後に、今回のインターンシップで自分はまだまだだと実感したので、この気持ちを忘れずに、これからの学生生活に活かしていきたいと思えます。



インターンシップを終えて 4E 荒木 俊哉

私は8月17日～28日、三菱重工(株)神戸造船所にインターンシップに行ってきました。

神戸造船所は主に原子力発電、潜水機器、宇宙機器の製品を製造している事業所です。

その中でも私がお世話になったのは潜水艦部品保証課です。この課は主に潜水機器部品の検査等を行っています。実習や見学を通して検査の厳しさや、大事さを学びました。最終日には各インターンシップ生が実習期間中に学んだことを社員の方に発表する成果発表会などもあり、他の部署の仕事の内容についても知ることができました。また、仕事への姿勢や、人間関係の大切さなど学外実習でしか学べないようなこともたくさん学ぶことができました。すばらしい仲間にも出会うことができ、とても充実した2週間でした！



東芝インターンシップを終えて 4I 吉永 智大

私は8月24日から9月4日まで株式会社東芝へインターンシップに行きました。東芝といえばテレビやパソコンが有名ですが自分の実習先では電源設備を扱っている部署でした。

実習では電源設備をつなぐケーブルの選定と部屋配置のレイアウトをしました。ケーブルの選定とは電源装置の間にかかる電圧や流れる電流を計算し、それにあった定格のケーブルを選ぶことで、部屋配置のレイアウトとは電源装置を部屋にどう入れるかを扉が開くスペースなどを考慮して設計することでした。

インターンシップを通して学んだことは、勉強ができるから仕事ができる訳ではないが、勉強は仕事の基礎になっていることでした。また、会社では学校のように次になにをすればいいかを教えてもらえないために社会に出ると学生で学んだことを応用し、自分で考えなくてはいけないことを痛感しました。人やお客様など話す機会が増えることからコミュニケーション力も必要であると感じました。

これからの学校生活では勉強だけでなく、コミュニケーション力や自分で考える力を養っていこうと思えました。今回のインターンシップで学んだことを忘れずに、残り少ない高専生活を楽しまたいです。



化血研インターンシップに参加して 4C 西浦 彩夏

私は熊本市にある化学及血清療法研究所で5日間の実習を行いました。化血研は、ワクチンなど医療用医薬品の研究開発から製造、販売までを一貫して行う製薬企業です。

実習では、製造部や、工場全体の空気・水を司る生産技術部の見学を行いました。これらの部署では濃度や流量、材質についての知識が必要となる場面があり、今学んでいることが仕事に直結するのだと実感し、勉強への意識が高まりました。

今回の実習では、製薬企業ゆえに厳格な規制があり、実際の業務には携われませんでした。しかし、受け身に見学するのではなく、主体性を意識することにより多くの学びが得られ、与えられた環境の中での自分の行動が充実感を作るのだと学びました。

また、高専生の採用を去年から、インターンを今年から始めたそうで、高専生への評価の高まりを感じました。その評価に恥じない人材になれるよう、自己成長に努めていきたいです。



SANAAでのインターンシップ 4A 尾上 朋洋

私は建築設計事務所SANAAへ14日間のインターンシップに行きました。

SANAAは国内外に多くのプロジェクトを受け持ち、世界で最も権威のある賞であるプリツカー賞も受賞されました。それゆえ、建築設計を夢見る私のような学生にとってSANAAは憧れの存在であり、今回インターンシップに参加できることは、とても貴重なことでした。

プロジェクトのお手伝いをさせていただくことで様々なことを吸収できました。

そして、所員の方々の働く姿は忘れられません。というのは、所員の方々は睡眠時間を削り建築設計を続けていたからです。事務所の電気はほとんど消えません。その姿を身近でみて、SANAAの建築に対する底知れぬ執念と愛情を感じ取ったように思います。

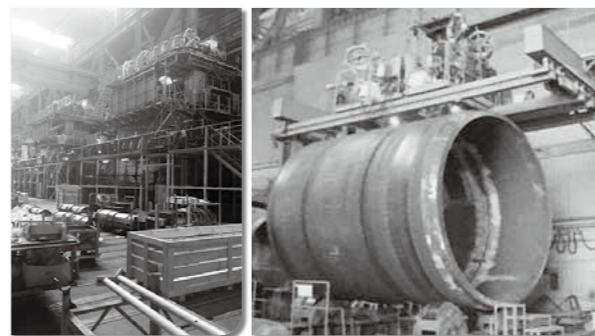
私もこの経験を胸に、執念と愛情をもって建築を学びたいです。



インターンシップを通して 6S 大塚 礼駿

私はHitz日立造船株式会社で2週間の実習を行いました。日立造船では船用ディーゼルエンジンやプロセス機器/圧力容器・原子力燃料格納容器、シールド掘進器などの製造を行っています。今回の実習では船用ディーゼルエンジン製造部とプロセス機器製造部の2つの部署で設計・現場体験を行いました。

このインターンシップを通して、各部署のそれぞれの係において重要な役割を担っていることを知り、1つのエンジン・圧力容器を製造するにも機械・電気の知識だけではなく学際性の重要性を実感しました。この2週間の実習で会社の雰囲気を感じ、社員の方々のさまざまな話をうかがうことができ自分の将来を見つめ直すことができる良い機会になりました。この経験を今後の特別研究や進学・就職活動に活かしていきたいと思えます。



シンガポール高田工業でのインターンシップを終えて 6C 上原 広貴

私はSingapore Takada Industries Pte. Ltd.にて2週間の実習を行いました。シンガポール高田工業は様々なプラントの配管設計、施工、メンテナンス等を行っています。私は今回、配管工事の一連の流れである配管設計、工程管理、品質管理について実習させていただきました。また、私は配管工事の技術的な面の勉強と英語でのコミュニケーションによる自身の英語力の向上を目的とし、シンガポールへ向かいました。実習では、配管工事は設計を基礎に「安く速く安全に良く」なければならないと知り、データによる工程管理や非破壊検査による品質管理の重要性を痛感しました。

私は今回の実習で得た経験と自信を糧に今後もこのような海外渡航の機会に挑戦していきたいと思えます。



久留米市役所でのインターンを通して 6A 立野 文

私は進路選択の際の参考にしたいと思い、久留米市役所の都市建設部建築課で10日間の実習を行いました。久留米市役所の建築課は、建築チームと計画チームの2つに分かれており、私は営繕業務を行う建築チームで実習を行いました。初めに建築課での主な仕事内容についての説明を受け、実際に工事を発注するための「起工伺」という書類づくりを体験し、その後、調査した物件の平面図・展開図を作成および現場見学に同行しました。また、消防署設計のための打ち合わせにも同席させていただきました。打ち合わせでは、設計事務所の方、市役所の建築と設備関係の方、消防署の職員の方と大人数で行われ、そこで沢山の意見が飛び交わされているのを見て、多くの人が1つの建物に関わっていることを改めて知ることができました。

実習中は、建築課だけでなく、市役所内の建築職に関する、建築指導課や都市計画課などの様々な課の職員の方からお話をうかがうことができ、自分が想像していた以上に、色々な課で建築職の方が活躍されていることも知ることができました。

今回の実習を通して、公務員での建築職の仕事内容の一端を知ることができましたが、その一方で、自分の知識のなさを知り、もっと知識を身に付けたいと思いました。また、職員の方々には様々なお話をうかがうことができ、たくさんの刺激を受けました。今回の実習で経験したことを今後の学校生活などに活かしていきたいです。





有明次世代科学クラブ4年目の取り組み

M科 坪根 弘明

平成24年度から平成26年度までの3年間、科学技術振興機構の事業である次世代科学者育成プログラムとして実施してきた“環境問題の解決を担うエリート科学者養成プログラム『有明次世代科学クラブ』”について、今年度も緒方記念科学振興財団の助成を受けて継続実施することとなりました。6名の新メンバーを加えた合計12名の中学生や本校専攻科とともに環境問題の解決をキーワードに科学研究に取り組んでいます。今年度の活動もご期待ください。

活動の様子(平成27年度)▶



三池山の伝説を科学する

5A 大石 絢

9月13日(日)、大牟田市民カレッジ講座「伝説を科学する～三池山に伝わる大蛇の大きさはどれくらい?～」が開かれました。この講座の開催にあたって、M科とA科の5年生8人が古くから大牟田の三池山に伝わる「大蛇とツガニ」の伝説について調査をしました。

実際に三池山に登り、建築で習った技術を用いて池を測量し、その測量データから機械の学生が3D化や検証を行いました。こうして機械と建築の力を合わせることで、自分たちなりに伝説を科学的に紐解きました。

講座が終わった後、市民の方々から「面白かった」「ぜひまたやってください」と声をかけていただいたことが何より嬉しかったです。今回の取り組みが、伝説を受け継ぐことや地域と高専を繋ぐきっかけになればと思います。



学会での表彰

6Iの大西雅也君は、9月に開催された産業応用工学会全国大会で学生賞を受賞しました。

8月にタイで開催されたICAME(電子工学および機械工学の国際会議)において6Iの山口賢二君がベストポスター賞を、6Iの野田武司君がベストペーパー賞を受賞しました。



全国高専体育大会で優勝

3Mの梅崎龍之介君は陸上200mで、2Eの松田寧々さんは柔道52kg級で優勝し、特別表彰されました。



編集後記

広報室 松本 慧子

日に日に寒さが増してきて、今年も残り僅かとなってきました。

夏から秋にかけては、高専大会や体育祭など色んな行事があり、一生懸命に取り組んでいる姿が印象的でした。体育祭では近所の方が楽しみに来まされたと言われていて、皆さんの頑張りが伝わっているのだと感じました。

行事だけでなく勉強でも何でも頑張ることが良い結果を生み、充実した学生生活につながるのではないかと思います。後悔のないよう日々過ごしてください。

寒くなってくると風邪やインフルエンザなどが多くなってきます。体調管理には十分気を付けましょう。

有明高専だより 第147号
平成27年11月27日

編集：有明高専広報室
発行：有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861(学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を
-Here are Lights-

